



第三代・第五代朝鮮總督
齋藤 実



第一代朝鮮總督
寺内 正毅



第六代朝鮮總督
宇垣 一成



第二代朝鮮總督
長谷川 好道



第七代朝鮮總督
南 次郎



第四代朝鮮總督
山梨 半造

増補

朝鮮總督府
三十年史

全3卷

クレス出版

以て之が警備は一日も忽詰に附することが出来なかつた。
憲兵警察の助長行政援助 且つ又この統合制の下に在る憲兵及び警察官憲は共に朝鮮に於ける警察及び衛生事務を掌理する外當時尙創業の時期なるを以て犯罪即決民事争訟調停檢察事務及び執達吏事務を行ふのみならず道路の修築森林の保護樹栽の奨励等の助長行政に與り地方に依りては陸接國境税關事務山林監視勸務漁業取締郵便物の保護等に任じ又僻地に在りては國語の普及實業の指導徴税の援助雨量水位の觀測害獸の驅除等にも従事し行政各部面に援助貢獻する所尠くなかつた。

二 集會結社及び出版物の取締

集會結社の取締 併合前に於ても政治上の目的を有する結社尠からず彼の一進會の如き、大韓自強會の如き實に其の翹楚であつた。其の他學會又は宗教類似團體中にも隱然政治的結社の實を具ふるものも尠くなかつた。保護政治確立後韓國政府は明治四十年七月法律を以て保安法を發布して、安寧秩序を保持する爲必要と認める場合には内部大臣は結社を解散し、警察官は集會又は多衆の運動若くは群集を制限禁止又は解散する事を得せしめた。之に基き同年八月に至り内部大臣は最も危険と認める數箇の結社團體に對して其の解散を命じた。又學會に對しては同四十年八月勅令を以て學會令を公布し、十月一日から實施して嚴に之を取締つた。併合實施の直前に至り公安の保持を出來得る限り確實にし萬一の場合速に臨機の措置を執る必要を認め、明治

第一期 寺内總督時代

刊行にあたって

明治三十八年に始まる日本の朝鮮支配は、明治四三年の日韓併合条約によって本格的なものとなつた。以後昭和二〇年八月一五日の日本の敗戦に到るまで、その支配はつづいた。この間の日本の朝鮮支配については、現在までに多くの研究の蓄積があり、齋藤実、大野緑一郎をはじめとして、朝鮮統治に関係した人々の私文書が発掘されている。しかし朝鮮植民地支配研究の基礎となるべき、朝鮮總督府が所蔵していた膨大な公文書類は、敗戦後の日本に戻ることはなくソウルに残置され、現在でもその詳細は明らかでない。また朝鮮總督府がその施政の間に刊行したさまざまな図書や雑誌も、現在まとまつて所蔵してあるところは少ない。クレス出版では、先に明治三十九年より昭和一八年に到る『朝鮮總督府施政年報』を刊行したが、それは、こうした基本史料の欠を補うためであつた。

今回刊行する『増補 朝鮮總督府三十年史』もまた、その一つである。そもそも『朝鮮總督府 施政三十年史』とその五年前に刊行された『朝鮮總督府 施政二十五年史』とは、朝鮮總督府の正史として多くの研究者によって基礎文献とされてきた。両者とも、朝鮮總督府の施政を「齋藤実總督時代」「宇垣一成總督時代」というように歴史總督毎に分け、その施政を記述しているが、後者は宇垣一成總督までをその範囲とし、前者は南次郎總督時代を中心に扱い、宇垣總督以前の記述は簡略になつている。従つて朝鮮總督府の施政を通観するためにはこの両書が必要とするが、ことはそう簡単ではない。すなわち『施政三十年史』は復刻版も刊行され入手しやすいのに、『施政二十五年史』は稀覯本で閲覧に不便であるという事情がある。今回『朝鮮總督府 施政二十五年史』の記述と『朝鮮總督府 施政三十年史』の「南次郎總督時代」をあわせて『増補 朝鮮總督府三十年史』としたのは、まさにこの点にある。

『増補 朝鮮總督府三十年史』は、日本の朝鮮支配四十年を通覧する第一級の史料であることは言うまでもない。また「施政方針」「財政」「産業」と続く各項目は、当該時期の朝鮮統治を簡潔に物語るものであり、日本の朝鮮植民地支配研究の辞書代わりにも利用できるレファレンス・ブックでもある。

第二十二 在外朝鮮人關係事項

對在滿朝鮮人關係

(一) 在滿朝鮮人農村の設置 本府は如上避難鮮農に安住を與へんが爲、昭和六年度より同九年度に亘り、年々多額の補助金を東亞勸業会社に交付して鐵嶺、河東營口綏化の四安全農村を設立經營せしめたのであるが更に昭和十年度に於て滿洲事變に因り歸鮮せる避難民の再移住を希望するもの、並びに昭和九年に於ける南鮮一帯の大水害罹災者中にて滿洲移住を希望するものを收容する爲、三源浦農村奉天省柳江縣を設立せしめた。然して昭和十一年九月東亞勸業公司是前記安全農村一切の財産を新設滿洲拓殖股份有限公司現在の滿洲拓殖株式會社に讓渡するに至つたが、本府は同公司及協議を遂げ各安全農村建設後既に數年を経過し、耕地略々熟化の結果收支の見込付きたるを以て、前記田庄臺附近の營口農村を除き、昭和十二年より各安全農村建設費に對し、二十箇年以内の年賦償還を開始し、輒ち安全農村建設の終局目的たる自作農創定の第一歩を印すること、なつた。然るに昭和十二年十二月一日より、滿洲に於ける我が國の治外法權撤廢實施の結果、以上本府の安全農村に關する施設は、之を擧げて滿洲國に移讓した。今昭和十三年末に於ける各安全農村の概況を示すと左表の通りである。

安全農村概況表 (昭和十三年十一月末現在)

安全農村名	戸數	番面積	一戸當總収種高	安全農村名	戸數	番面積	一戸當總収種高
榮興(元營口)	一、七〇戸	三、九〇町	二、三三	鐵嶺	一、五〇戸	三、〇〇町	二、二二
				嶺南	一、〇〇戸	一、〇〇町	一、〇〇
				合 計	四、二〇戸	八、九〇町	三、五五
河 東	六四	一、四三	二、四四	三 源 浦	一、五	一、五	一、五
綏 化	四三	一、〇〇	一、七七	合 計	八、九	一、〇	一、〇

備考 安全農村は主として水稻を栽培す。

(二) 間島在住鮮農自作農の創定

當地方に於ける首題の施設は、東洋拓殖株式會社に依りて開始されたことは前期に詳説した通りである。乃ち本府は東洋拓殖株式會社に對し、昭和七年度より向ふ五箇年間毎年十萬圓を補助し、會社は之に對し年々三倍の自己資金三十萬を出資し、毎年合計四十萬圓を以て此の事業を遂行し、先づ五箇年間に二千五百戸の自作農創定の基礎を築き、此等諸經營資金の償還完済を俟ち、以て自作農たらしめんとするものである。即ち定期間後に於ける回收金の元本は順次資金に繰入れ、更に年々更新して反復貸付を行ひ、以て自作農を漸増せしむること、した。而して以上の計畫に基づく昭和十二年末現在に於ける成績は、自作農創定戸數二千九百六戸自作農創定面積一萬三千六十五萬町歩貸付金總額百四十九萬四千四百七十九圓に上つてゐる。

(三) 滿洲移民實行機關

朝鮮と滿洲とは地理歴史的に密接なる關係を有し、古來朝鮮人の滿洲へ移住するもの頗る多く、最近に於ける在滿朝鮮人の數は優に百萬を越ゆるの狀況なるのみならず、尙ほ將來遷増の趨勢にあり、而も之等多數移住者の大部分は農民なるを以て、其の統制及び安定に必要な拓殖事業を計畫的に經營し、之に依つて滿洲國の統治産業部面開發に貢獻すると同

増補朝鮮総督府三十年史 全3巻

[1] 第一期 寺内総督時代
第二期 長谷川総督時代
第三期 斎藤総督時代
(原本：施政二十五年史)

[2] 第四期 山梨総督時代
第五期 第二次斎藤総督時代
第六期 宇垣総督時代
(原本：施政二十五年史)

[3] 第七期 南総督時代
(原本：施政三十年史)

A 5判/上製函入クロス装
揃定価36,000円(各巻12,000円) 1999年1月刊
ISBN4-87733-062-3 C3331

クレス出版好評既刊書

朝鮮総督府施政年報

全30巻 朝鮮総督府編 広瀬順皓解題
明治39年韓国統監府が設置されて以来、明治43年の日韓併合をへて昭和16年版まで刊行された日本の朝鮮統治の年次報告書。行政、司法、治安、財政、金融、交通、産業、教育等各分野を網羅し、日本の朝鮮支配研究の基礎史料の一つである。
揃定価380,000円 ISBN4-906330-37-1,38-X,39-8,40-1

日本委任統治地域行政年報

全7巻 外務省編 等松春夫解説
1920年から38年まで日本政府が毎年国際連盟に提出した日本統治下の南洋群島の行政報告。行政のみならず法制、産業、交通、労働、教育、医療、軍事等のデータを収録し、戦間期の植民地支配の国際比較研究にも役立つ、南洋群島統治研究の基礎史料。
揃定価100,000円 ISBN4-87733-061-5

南洋叢書

全5巻 満鉄東亜経済調査局編 原田勝正解題
第一次大戦後、とくに1930年代にはいり日本の資源獲得のために目標となった地域(蘭領東印度、佛領印度支那、英領マレー、シヤム、比律賓)の広範囲に及ぶ高度な資料集。経済・商業・貿易・交通・国際関係等の研究にも利用できる叢書。
揃定価70,000円 ISBN4-906330-36-3

樺太廳報

全7巻 樺太廳文書課編 荒澤勝太郎解題
樺太廳の施政並びに法令に関する意図や其の内容を詳かにし、又汎く本島の産業・文化に関する研究意見を紹介することを趣旨とした官庁誌。第1号(昭和12年5月)~第20号(昭和13年12月)の全号全頁、「樺太時報」の目次・樺太日誌・資料月報を全号復刻。
揃定価97,000円 ISBN4-906330-10-X

露西亞月報

全22巻 外務省調査部第三課編 吉村道男解題
満州事変後のソ連邦の全貌を多角的にとらえようと、ソ連邦に関する調査、重要時事問題および法令集覧を加え、本省と在外公館の執務並びに日満における調査機関の調査上の参考に資するとともに、ソ連事情啓発のため昭和9年1月より同19年3月刊行されたもの。
揃定価500,000円 ISBN4-87733-005-4,006-2,007-0,008-9

近代諸家文書集成

マイクロフィルム全203リール
近代日本の政治、財政史上で大きな役割を担った人物の活動記録。
①松方正義文書 揃432,000円 ②勝田主計文書 揃960,000円
③松尾臣善文書 揃564,000円 ④目賀田種太郎文書 揃108,000円
⑤曾彌荒助文書 揃48,000円 ⑥水町袈裟六文書 揃96,000円
⑦桂太郎関係文書 揃380,000円

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 ×ローナ日本橋
☎03(3808)1821 FAX03(3808)1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版